

全国学力・学習状況調査について

1. 調査の目的

- 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

令和3年5月27日（木）

3. 調査の対象

泉佐野市立佐野中学校 第3学年、全生徒
実施生徒数（193人）

4. 調査の内容

- (1) 学力に関する調査
 - ア 教科は、小学校は国語及び算数、中学校は国語及び数学。
 - イ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、知識・技能に関する内容と、それらを活用する力や構想を立てて実践し評価・改善する力などに関する内容とする。
 - ウ 出題形式については、選択式及び短答式に加え、記述式の問題とする。
 - (2) 学習状況に関する調査
調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施する。
 - (3) 学校の取組に関する調査
調査対象の児童生徒が在籍する学校を対象に、学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施する。
- ※平成29年度より、文部科学省から示される都道府県の平均正答率及び市町村の平均正答率は、整数となっております。

令和3年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

1. 全体の傾向

平均正答数の全体的な分布状況は全国とほぼ同じであるが、全国と比べ上位層が少なく、中位層・下位層が多い傾向が見られる。

平均正答率（本校 58／泉佐野市 59／大阪府 62／全国 64.6）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

国語	特徴がみられた設問
<p>【話すこと・聞くこと】 ○話合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考えることに関して、正答率が全国平均を下回っている。 1三 参加者の誰がどのようなことについて発言するとよいかと、そのように考えた理由を書く (48.4/57.1)</p> <p>【書くこと】 ○書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書くことに課題がある。 2一 意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する (17.4/24.8)</p> <p>○書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考えることに関して、正答率が全国平均を下回っている。 2二 意見文の下書きの構成の工夫について、自分の考えを書く (64.1/74.5)</p> <p>○伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書くことに関して、正答率が全国平均を下回っている。 4四 事前に確かめておきたいことについて相手に失礼のないように書く (57.6/71.9)</p>	<p>【読むこと】 ○文脈の中における語句の意味を理解することに課題がある。 3一 「呼吸をのみこんだ」の意味として適切なものを選択する (34.8/43.7)</p> <p>○場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解することに関して、正答率が全国平均を下回っている。 3二 「喝采してやる」と「とった」のそれぞれについて、誰の動作なのかを選択する (45.7/58.7)</p> <p>○文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつことに課題がある。 3四 「吾輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているかや、そのような接し方をどう思うかを書く (12.5/20.5)</p> <p>【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】 ○事象や行為などを表す語句について理解することに関して、正答率が全国平均を下回っている。 4二 「随時」の意味として適切なものを選択する (62.5/74.0)</p> <p>○相手や場に応じて敬語を適切に使うことに関して、正答率が全国平均を上回っている。 4三 「行く」を適切な敬語に書き直し、その敬語の種類として適切なものを選択する (53.3/40.3)</p>

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
国語の勉強は好きですか 「当てはまる」と回答	26.9	23.5		3.4
国語の授業の内容はよく分かりますか 「当てはまる」と回答	35.2	31.5		3.7
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか 「当てはまる」と回答	57.0	53.7		3.3
国語の学習では、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりしていますか 「当てはまる」と回答	37.8	35.5		2.3
国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしていますか 「当てはまる」と回答	25.9	22.7		3.2

○文章を推敲することが苦手である。

○自分の考えを持ち、それを文章にして表現することが苦手である。

○記述式の問題は、全国に比べて無回答率が大幅に上回っている。

○国語に関する興味・関心が高いといえる。

令和3年度全国学力・学習状況調査の分析（数学）

1. 全体の傾向

平均正答数が全国と比べ上位層が少なく、中位層・下位層に偏っている。

平均正答率（本校 50／泉佐野市 52／大阪府 56／全国 57.2）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

数学	特徴がみられた設問
<p>【数と式】</p> <p>○整式の加法と減法の計算をすることに関して、正答率が全国平均を下回っている。 1 $(5x + 6y) - (3x - 2y)$ を計算する (66.5/77.1)</p> <p>○問題場面における考察の対象を明確に捉えることに関して、正答率が全国平均を下回っている。 6 (1) 四角で囲んだ4つの数が12, 13, 17, 18のとき、それらの和が4の倍数になるかどうかを確かめる式を書く (73.0/83.9)</p> <p>○目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することに関して、正答率が全国平均を下回っている。 6 (2) 四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になることの説明を完成する (55.1/61.8)</p> <p>○数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することに課題がある。 6 (3) 四角で4つの数を囲むとき、四角で囲んだ4つの数の和がどの位置にある2つの数の和の2倍であることを説明する (22.2/30.3)</p> <p>【図形】</p> <p>○平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの理由を説明することに課題がある。 9 (1) 四角形ABCEが平行四辺形になることを、平行四辺形になるための条件を用いて説明する (33.5/44.3)</p> <p>○錯覚が等しくなるための、2直線の位置関係を理解することに関して、正答率が全国平均を下回っている。</p>	<p>9 (2) 錯覚が等しくなることについて、根拠となる直線FEと直線BCの関係を、記号を用いて表す (53.0/64.3)</p> <p>○ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することに課題がある。 9 (3) $\angle ARG$ や $\angle ASG$ の大きさについていつでもいえることを書く (20.5/28.8)</p> <p>【関数】</p> <p>○関数の意味を理解することに課題がある。 4 経過した時間と影の長さの関係を、「…は…の関数である」という形で表現する (30.3/48.0)</p> <p>○与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることにに関して、正答率が全国平均を下回っている。 7 (1) 与えられた表やグラフから、砂の重さが75gのときに、砂が落ちきるまでの時間が36.0秒であったことを表す点を求める (87.6/93.5)</p> <p>【資料の活用】</p> <p>○与えられたデータから中央値を求めることにに関して、正答率が全国平均を下回っている。 5 反復横とびの記録の中央値を求める (75.7/84.5)</p> <p>○ヒストグラムからある階級の度数を読み取ることにに関して、正答率が全国平均を下回っている。 8 (1) 気温差が9℃以上12℃未満の階級の度数を書く (72.4/83.0)</p> <p>○相対度数の必要性和意味を理解することに関して、正答率が全国平均を上回っている。 8 (2) 2つの分布の傾向を比べるために相対度数を用いること的前提となっている考えを選ぶ (43.2/36.8)</p>

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
数学の勉強は好きですか	47.1	59.1	○	12.0
数学の勉強は大切だと思いますか	74.6	84.1	◇	9.5
数学の授業の内容はよく分かりますか	60.1	74.6	○	14.5
数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	64.2	74.6	○	10.4
数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	45.6	50.6	◇	5.0
数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	66.9	75.8	◇	8.9
数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	73.6	83.5	◇	9.9
今回の数学の問題では、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありました。それらの問題についてどのように解答しましたか	48.2	57.8	◇	9.6
解答時間は十分でしたか（数学）	86.6	80.5	◇	6.1

- 学習状況調査の中で全国との差が5%以上10%未満の差が6項目、10%以上の差が3項目あり、H31年度と比べて全国との差は広がっている。その要因の1つとして、調査結果でも基礎的な計算問題の正答率が全国平均と比べて著しく低いという理由があると考えられる。
- 「解答時間は十分でしたか」の項目で全国を上回っている。この理由としては学習状況調査より、「数学の問題の解き方がわからないときはあきらめずにいろいろな方法を考えますか」の項目において、全国平均と比べて大きく差があることが考えられる。
- 「数学の勉強は好きですか」「数学の授業の内容はよく分かりますか」の質問項目で全国平均を大きく下回っていることから、全体的に学習の定着に課題があると考えられる。
- 学力状況調査において、設問4の全国平均との差が一番大きいことから、用語の意味を理解することに課題があるとみられる。

令和3年度全国学力・学習状況調査の分析（生徒質問紙より）

本校の子どもたちの意識調査を、質問に対して4択で選ぶものは、選択肢1、2と3、4はそれぞれ同じ傾向と捉える。（例えば、1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない）。また、時間に関する質問は6択である。（1. 4時間以上 2. 3時間以上、4時間より少ない 3. 2時間以上、3時間より少ない 4. 1時間以上、2時間より少ない 5. 1時間より少ない 6. 全くしない）。1と2の合計を全国と比較して5%以上の差があるものを取り上げている。

下記の表には全国と比較して5%以上の差のあるものの中で、特徴的な項目を列挙した。さらに、下線部に関しては10%以上の差のあるものを示している。

設問内容種類別の全国との比較で差が大きい特徴のある項目

設問内容種別	本校の状況	本校 < 本校回答率 / 全国回答率 >
【家庭生活の様子】	朝食を食べていない生徒の割合が増えている。またスマートフォンを使う時間やテレビゲームをする時間が増えている。その他に、子どもの参加行事が減っている。	(1) 朝食を毎日食べていますか <84.9/92.8> (4) 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか <61.1/67.9> <u>(5) 普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか <44.5/32.3></u> (7) 将来の夢や目標を持っていますか <75.8/68.6> (9) 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか <71.5/65.9> <u>(24) 今住んでいる地域の行事に参加していますか <26.9/43.7></u> (25) 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか <38.8/43.8> (66) 新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていましたか <42.9/48.4>
【家庭学習の様子】	家庭学習をする時間が増えている。学校でも家庭学習を推進するように毎日課題を出している。また、全国に比べて読書をする生徒の割合が増えている。	(17) 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む) <71/63.5> (18) 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む) <48.2/41.8> <u>(19) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む) <38.5/26.8></u> (21) 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)1日当たりどのくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く) <19.1/14.1>

		<p>(22) あなたの家には、およそどのくらい本がありますか（一般の雑誌、新聞、教科書は除く） <39. 9/37. 4></p> <p>(28) 学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか <83. 9/93. 2></p>
【学校での生活の様子】	全国に比べて学校に行くのが楽しいと思う生徒の割合が低い。	<p>(13) 学校に行くのは楽しいと思いますか<69. 5/81. 1></p> <p>(37) 学級の生徒との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか <63. 2/77. 8></p>
【学校での学習の様子】	1, 2年生のときの授業で自分の意見や考えを発表して相手に自分の考えを伝える授業が少なかった。	<p>(26) 1, 2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか <6. 3/33. 4></p> <p>(27) あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の生徒と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか <4. 7/34. 8></p> <p>(31) 1, 2年生のときに受けた授業で、生徒の間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていましたか <78. 7/83. 7></p> <p>(32) 1, 2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか <51. 3/62. 0></p> <p>(33) 1, 2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか <74. 6/81></p> <p>(34) 1, 2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていましたか <49. 2/59. 5></p> <p>(35) 1, 2年生のときに受けた授業では自分にあった考え方、教材、学習時間などになっていましたか <62. 7/74. 3></p> <p>(38) 学習した内容について、分かった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか <66. 3/74. 6></p> <p>(39) 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか <49. 7/70. 2></p> <p>(40) あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか <48. 7/73. 9></p> <p>(41) 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか <60. 1/69. 8></p>

本校の取組

◎これまでの取組

本校では、「人権尊重の精神に満ち、豊かな感受性を兼ね備え、自ら行動できる人間の育成」を教育目標に掲げて人権教育及び人権啓発に邁進しています。人権教育及び人権啓発の推進に関する法律に、「人権教育とは、人権尊重の精神の涵養を目的とする教育活動をいい、人権啓発とは、人権尊重の理念を普及させ、及びそれに対する理解を深めることを目的とする啓発活動」とあります。本校のめざす生徒像にあるように「互いに尊重し、認め合い、力を合わせて行動すること」によって「自らのことをありのまま受容し、健やかな心身をめざし行動することができる生徒」になってほしいと願っております。また、今後、「将来に展望を持ち、自ら切り拓き、夢の実現に向け行動する生徒」として成長していくために8つの重点目標を掲げています。

また、次の4点を本年度の重点課題とし、以下のように取組みを進めています。

1つめの重点課題は、「集団づくり・仲間づくりの充実」です。学校行事等を活用した集団づくり、また、集団づくりを意識した学級経営・学年経営と組織的な学校運営をめざしています。体育大会等の学校行事で学年・学級で、生徒同士が主体的に意見交換をする機会を増やしなが粘り強く話し合うことを通して、生徒の自己肯定感や自己有用感を培っています。自分の役割分担に責任を持ちながら集団をまとめ、つながりを大切にしています。

2つめの重点課題は、「授業改善の推進」です。子どもたちが見通しを持ち、粘り強く取り組み、互いに高め合い、次の学びにつながるよう授業改善に努めています。全国学力状況調査の結果、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」に対して、全国比に対して6.4%低い状況にあり、課題解決能力や主体性が低いことが見受けられます。生徒がICT活用などを通じて課題に興味・関心を持ち、基礎的・基本的な知識及び技能を身につけて思考力・判断力・表現力などを磨き主体的に授業に取り組む態度を身につける環境を整えます。

3つめの重点課題は、「不登校の子どもたちや保護者へのかかわりの充実」です。こども支援コーディネーターと学級担任及び学年教職員とが連携して不登校の子どもたちや保護者と関わりを持ち、継続的に情報を共有したり相談に乗ったりしています。全国学力状況調査の結果、「学校に行くのが楽しい」に対して、平成29年度45.5%、平成31年度46.3%、そして、本年度は33.2%と学校に行く意欲が減少傾向にあります。不登校の子どもたちとの関わりを増やすためにICT活用なども考慮に入れて「個に応じた指導」をめざしています。

4つめの課題は、「自主活動の推進」です。全国学力状況調査の結果、下記の項目で過去8年間の調べで今年度が最も高くなっています。

- ①「いじめは、どんな理由であってもいけなないことだと思いますか」82.9%
- ②「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」75.6%
- ③「自分には、よいところがあると思いますか」33.7%

子どもたちの規範意識が高まることで自己肯定感・自己有用感につながると考えられます。このような生徒の割合を増やすために、生徒会や委員会活動等の自己活動を通じて、共生の観点から誰一人とりこぼすことなく、相乗的に高めていきたいです。

◎これからの取組

2年前から取り組んでいる泉佐野市立佐野中学校向上プランを元に、「安心安全推進」「家庭学習推進」「授業学力向上」「進路保障推進」「地域社会連携」の5つのアクションプランを進めています。これらのプラン推進こそが、「人権尊重の精神に満ちた、心豊かな人間の育成」へと繋がっていきけるものであると理解し、取組をおこなっています。「互いにつながり合える集団づくり」をより推進し、前項の重点課題をより良くしていくために行動をおこしていく必要があります。今年度より本格的にそれぞれ5つのアクションプランのメンバーに教職員が所属することで教科等の横断的視点から道徳の時間、特別活動、そして総合的な学習の時間等で学校生活はもとより家庭・地域と共に子どもたちを見守る体制を構築しています。